

授業科目名	社会科・公民科指導法Ⅲ	選 択	開講年次	2	単位数	2
科目区分	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）					
サブタイトル	社会科・公民科を捉える視点	担当者	小松 伸之			
講義概要	<p>【概要】</p> <p>社会科教育・公民科教育は、時代状況と密接に結びつきながら、その学習対象を拡大させてきた。特に「マイノリティ」と位置づけられてきた人々の在りようについて学ぶことは、日本社会の一面を理解するだけでなく、日本社会全体を逆照射する視点ともなりうるものである。</p> <p>本講義では毎回テーマを設定し、個々の課題について、学習対象としての位置づけ、問題の所在などについて学習していくことで、社会科・公民科を切り取る幅広い視点を培うことをねらいとする。人権に対する理解を深め、行動の根底に置くことは、教師として将来向き合うことになる生徒たちが抱える多様な背景に対する配慮にもつながるものである。</p> <p>【到達目標】</p> <p>○「マイノリティ」の人権に関する課題の個別性を理解することができる。</p> <p>○人権意識を基盤に社会科教育・公民科教育に対する視点を培うことができる。</p>					
履修条件	社会科・公民科指導法Ⅰと、ⅡもしくはⅣをあわせて単位取得済みの者。					
教科書・参考書	<p>【教科書】最初の授業で指示する。</p> <p>【参考書】適宜、教場で指示する。</p>					
授業回数	内容					
1	日本社会の多様性と「人権」の位置					
2	社会科・公民科をどのような視点から捉えるか？					
3	ジェンダーからの視点					
4	高齢者からの視点					
5	子どもからの視点					
6	「障害者」からの視点					
7	疾病からの視点					
8	「同和問題」からの視点					
9	アイヌからの視点					
10	琉球・沖縄からの視点					
11	在日外国人からの視点					
12	ニューカマーからの視点					
13	今日的な人権侵害・抑圧					
14	社会的格差の現状					
15	まとめ（教場テスト）					
評価方法	教場テスト・課題・学習指導案（85%）、平常点(15%) ※出席は評価の前提条件となる。また、受講者には授業への積極的な参加を求める。					
評価基準	授業内容についてよく理解し、適切に表現できた者には「A」を与える。内容についての理解や表現に不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	特になし					